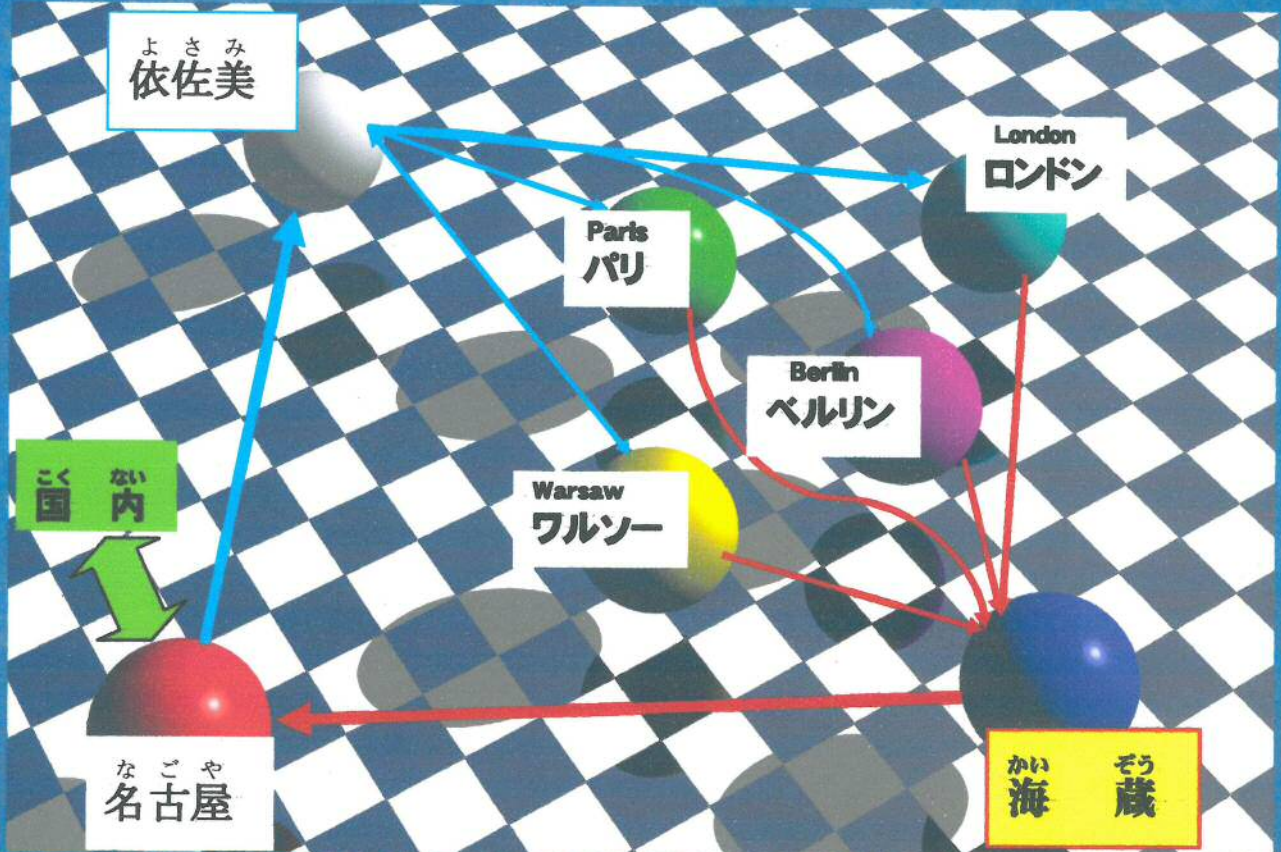


ヨーロッパとのむせんでんしん ＝ 対欧無線電信 ＝

えへっ!? 海蔵に
こんな歴史遺産が
あったの?
はじめて知ったよ!

かいぞうじゅしんじょ 海蔵受信所ものがたり



ヨーロッパからの通信は、すべて直接海蔵受信所で受信して、陸路の連絡線（トーンチャンネル）を使って名古屋無線電信局に送り届けて、国内の宛先に届けました。

この仕組みは、国の方針変更により一九三八年（昭和十三年）十一月に、海蔵受信所は僅か九年余りで廃止となりました。



1929年（昭和4年）4月15日にサービスを始めた時の景観。
場所は、四日市市西阿倉川（現在の松ヶ丘）にありました。

●廃止後、逓信省、電気通信省、電電公社、NTTの施設として、1961年12月まで使われていましたが、順次取り壊しとなり、分譲地として再開発され、住宅団地に様変わりしました

たいおうむせんでんしんかいぞうじゅしんじょ 対欧無線電信海蔵受信所とは

1. はじめに

長く門戸を閉ざしていた鎖国政策の江戸時代が終わって、文明開化の明治時代に入り西洋文明が壁を切ったように流れ込んできました。「殖産興国」を旗印に欧米の先進技術を必死に学ぶ努力をした結果、欧米に近づくことができ、かつ、日清、日露戦争に勝利して、世界の先進国家の仲間入りを果たしました。しかし、わが国の地理的位置が極東の端に存在しているために、情報伝達に時間を要することが大きな悩みでした。

つまり、その当時、わが国と外国との連絡手段は海底ケーブルを利用した有線通信で、無線電信は伝播距離が短い一部の隣接した国との通信手段でした。更に海底ケーブルによる通信にも問題がありました。それは海底ケーブルが全て外国通信社の所有だったので、機密漏洩や妨害工作等が懸念され、また、故障した場合にも復旧に時間がかかるのが政府にとって悩みの種でした。

国は、この問題を解決しようと太平洋横断海底ケーブルの敷設を考えましたが、アメリカ本土への陸揚げが拒否され挫折してしまいました。

そこで政府は、大正時代に入って無線電信の長波利用技術が開発されたことに着目して、通信省が中心になってアメリカ本土や欧州諸国と直接通信連絡ができる国際無線電信局の設立を図るための国家プロジェクトを立ち上げました。

しかし、二つの戦争と1923年（大正12年）9月の関東大震災の発生で、わが国の財政は年とともに窮乏し、大電力無線局建設の予算を編成することは困難な状況にありました。さらには、無線通信に適した波長の割当が世界的な問題になっていたこともあり、波長の獲得競争で優位に立つためには、早急な大電力無線局を建設する必要に迫られていました。

政府は、国際通信の自主権を確立するとともに、波長の獲得を図るという緊急事態に対処するには、民間資本で特殊会社を設立し設備を整えて、これを政府が運用することが適切だと判断し、国策会社の日本無線電信株式会社の創立を決めました。

1925年（大正14年）2月には、日本無線電信株式会社法が成立し、同年10月には日本無線電信株式会社が設立されました。会社設立の目的は、外国無線電報用の無線電信設備とその付属設備の建設、維持、改良を行い、これらの設備を政府の用に供することでした。すなわち通信業務自体は政府が行うものとされていたので、同社は通信会社ではありませんでした。

同社は、1927年4月15日に愛知県碧海郡依佐美村に送信所と三重県三重郡海蔵村に受信所の建設工事を開始、1928年（昭和3年）3月31日に海蔵受信所を、翌年3月31日に依佐美送信所を竣工させ、名古屋無線電信局の操縦による我が国自前の対欧無線通信ルートが構築されました。

①



日本無線電信株式会社海蔵受信所の建設工事中の写真（大林組提供）

工期：1927年3月18日～同年10月31日

設計者は、依佐美送信所と同じ

著名な建築家加護谷祐太郎氏である。

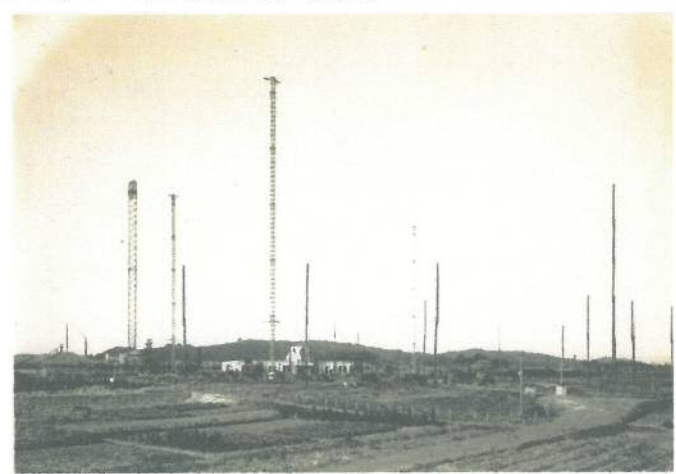
工事費は、総額90万円である。

②




完成した海蔵受信所（正門方向からの撮影）左は、依佐美送信所の5号住宅に該当する独身住宅が完成している。中央に短波用60m支線式鉄塔3基の内、中央の鉄塔（2号塔）である。写真左端に1号塔の一部が見える。（矢印）

③



※ 短波用60m支線式鉄塔3基がすべて写っている貴重な写真である。左端の鉄塔は、85m支線式鉄塔2基の内の1基で、撮影時には建設中と思われる。国際電気通信株式会社史によれば、この写真の撮影は昭和5年と考えられる。

※上記の写真資料3枚は、榎大林組名古屋支店Y氏より依佐美送信所記念館ガイドボランティアの会長K様が依佐美送信所の写真と共に受領されたものを、ご厚意により提供して頂いたものです。

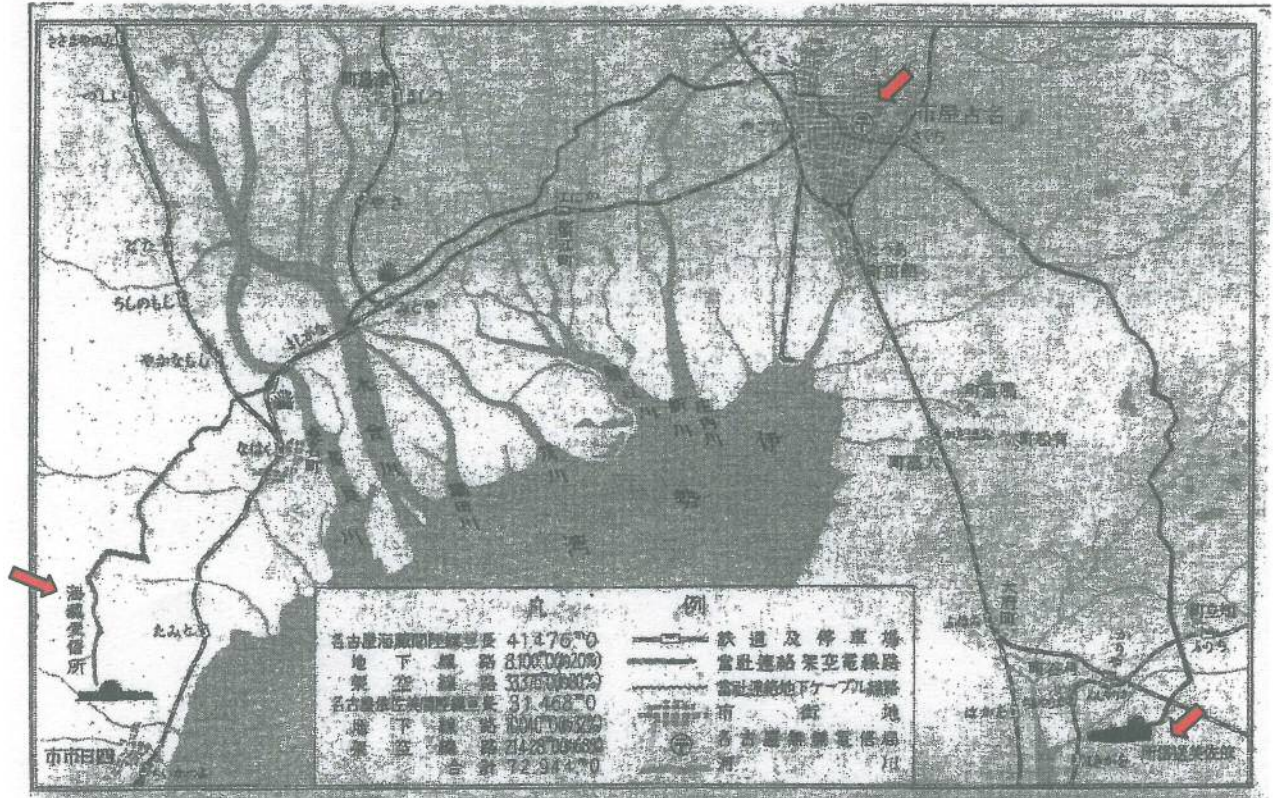
(2010. 9. 19)



完成後の海蔵受信所 日本無線電信株式会社ポストカード

米国のアマチュア無線家 k 2 T Q N (John Dilks) 氏から贈呈された星山様 (JA2JW) から先輩の森本様を通じて戴いたもの。

かいぞうむら よさみむら かりやし しまいむら
 かつて海蔵村と依佐美村 (刈谷市) は「姉妹村」だった!



[写真1] 「對歐無線電信局依佐美送信所繪はがき」の地図(1929年)

海蔵受信所竣工式の模様を伝える
 昭和三年四月十六日付の大阪朝日
 新聞の記事。(マイクロ保存資料)
 ※コピー禁止のため書写による。

對歐無線電信所竣工

三重縣三重郡海蔵村に日本無線電
 信株式會社によって建設された對
 歐無線電信所の竣工式は、十五日
 同所に置いて舉行された。

君が代の奉樂につれて国旗が空
 高く掲揚され、歐洲の空から日
 本の空へ通信をもたらすこの科
 學文明の施設は祝福された。通
 相の祝辭代讀、三重縣知事の祝
 辭朗讀あり。

小學校の旗行列その他の餘興で終
 日祝賀気分にあふれた。無電受信
 は名古屋郵便局に目下工事を進め
 つつある有線連絡電信装置が完成
 するとともに受信は名古屋より東
 西に振り分けられるのである。

(名古屋電話)



建設工事中の長波用アンテナ 垂坂[左]と三ツ谷[右]

(ダブルゴニオメーター式アンテナ: 高さ60m)

(写真は、大林組提供)

長波受信用のアンテナは、垂坂山と
 三ツ谷地内海岸近くに約四キロメ
 ートルの距離を隔てて建設された。
 いずれも受信所廃止の際に兵庫県
 の小野受信所に移設された。



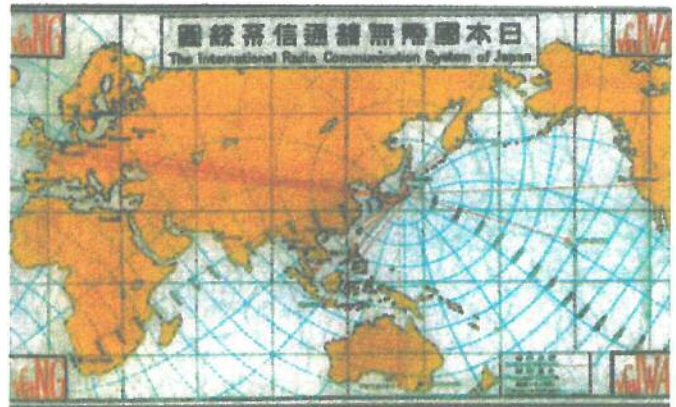
① かいせうじょしんじょ かいきよくじ え しょうわ ねん
海蔵受信所開局時の絵ハガキ (昭和3年)



② よっかいちしんじょ かいせうじょ え しょうわ ねん
四日市受信所に改称後の絵ハガキ (昭和5年)

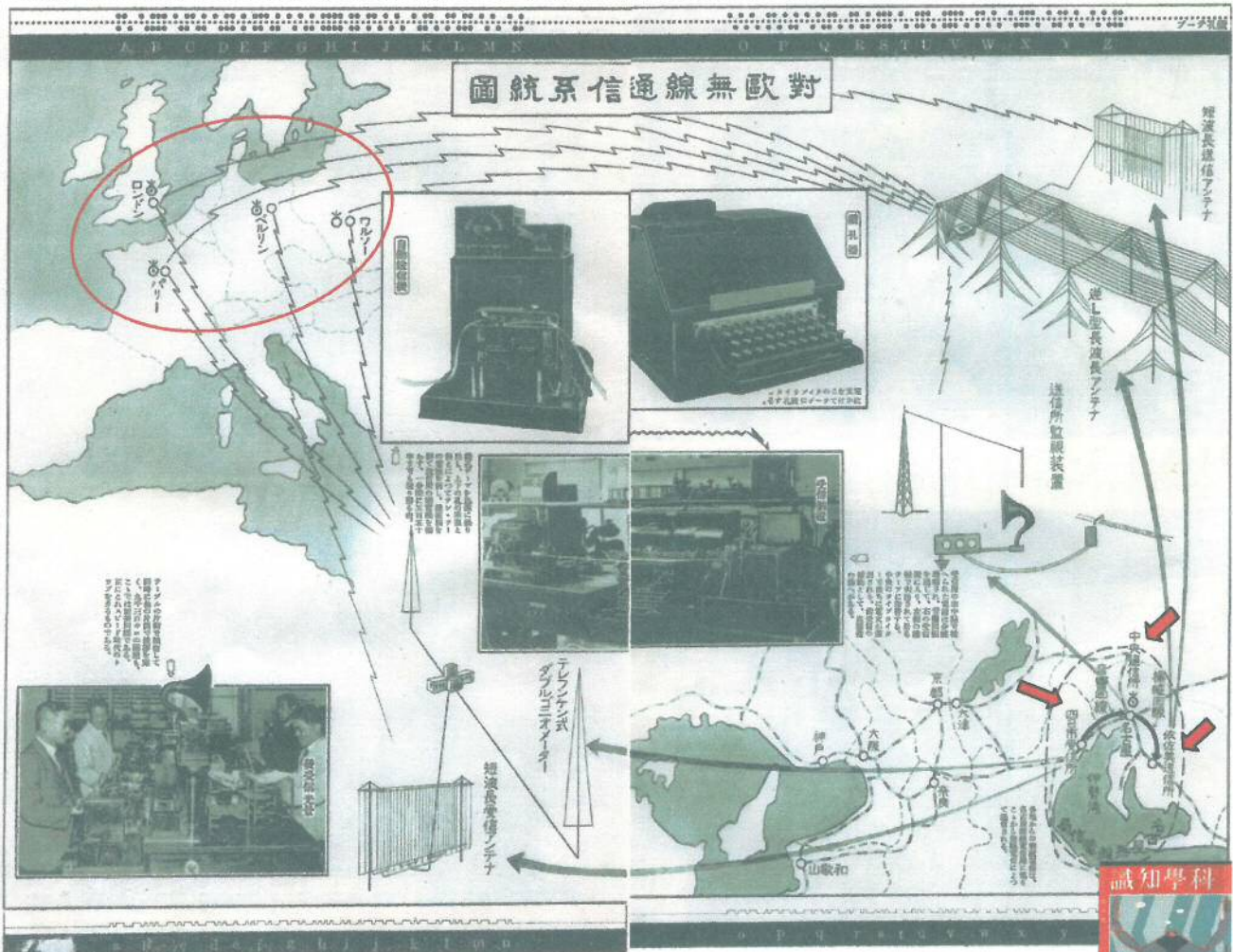


③ にほんこくさいむせんつうしんけいとうず え しょうわ ねん
日本国際無線通信系統図絵ハガキ (昭和3年)



④ にほんこくさいむせんつうしんけいとうず え しょうわ ねん
日本国際無線通信系統図絵ハガキ (昭和3年)

4枚の絵ハガキは、いずれも米国アマ無線家K2TQN (John Dilks氏) 提供の日本無線電信株式会社の Early Photos Postcards.



「科学知識」5月号 (昭和5年5月1日発行第10巻5号) 掲載の対歐無線通信系統図

